

【はじめに】

4月どりのブロッコリーは、年間で最も価格が高い作型であるが、トンネル被覆をする必要があることから栽培面積はそれほど伸びていなかった。近年、特定の品種を11月に露地定植すると、4月に頂花蕾が収穫でき、さらに側花蕾が収穫できる現象が見られた。そこで、4月以降の収量の増加を目的にブロッコリー2花蕾どり技術を開発したので報告する。

【試験方法】

品種：2011年度に3品種、2013年度に5品種を比較した。

施肥量：2011年度に、‘グランドーム’（サカタのタネ）を用い、窒素成分量を10a当たり標準35kgに対して40kg、50kg、60kgと変えて検討した。

べたがけ被覆の効果：2013年度に‘グランドーム’を用い、不織布のべたがけ被覆の効果を検討した。定植日は11月1日とし、べたがけ被覆は、不織布（ニューアイホッカ#18）を用い、2013年12月16日（土寄せ後）～2014年2月28日の間被覆した。

べたがけ被覆栽培における定植時期と収穫時期：2014年度に‘グランドーム’を用い、定植日を11月5日、11月10日、11月15日とずらし、べたがけ被覆栽培における定植時期と収穫時期の関係を検討した。11月15日定植区は、2014年12月12日～2015年2月27日の間、11月10日・15日定植区は2014年12月25日～2015年3月5日の間被覆した。

【試験結果】

品種については、低温に鈍感でボトニングの発生が少なく、生育が旺盛で、2花蕾収穫が見込める品種として‘グランドーム’が適していた。

施肥量は、10a当たり窒素成分量40kg程度が適当であった。

不織布のべたがけ被覆は、べたがけ被覆内の地温が、2月期で露地に比べ約3℃高く、生育が旺盛となり、収量はべたがけ被覆無しに比べ約1.5倍増加した（表1）。

べたがけ被覆栽培における収穫時期は、頂花蕾は定植時期が遅くなるほど遅れる傾向となり、11月10日定植では価格が高い4月上旬中心の収穫となっ

た。側花蕾は、全ての区で5月中下旬中心の収穫となった（図1）。

表1 べたがけ被覆と収量

べたがけ		花蕾重		計
		kg/10a		
有	頂花	秀	1,334	2,399
		優	0	
	側花	秀	878	
		優	187	
無	頂花	秀	1,265	1,610
		優	25	
	側花	秀	187	
		優	133	

注) 2014年11月10日定植

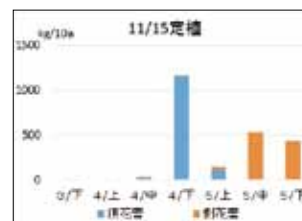
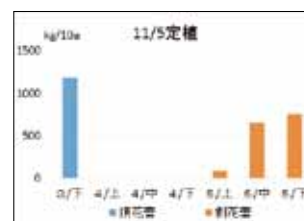


図1 定植時期と収穫時期



図2 側枝発生と花蕾の様子

【おわりに】

本技術は、べたがけ被覆のみの露地栽培で年間で最も単価が高い4月に頂花蕾を収穫した後、5月に頂花蕾と遜色のない側花蕾が収穫できる。

品種は、‘グランドーム’を用い、施肥量は一般的なものより1～2割増やし、11月10日前後（石井町基準）に定植する。土寄せ後～頂花蕾発生初期までべたがけ被覆を行うことで側花蕾の収量が増え、大幅な収量の向上が可能である。

（農産園芸研究課 野菜・花き担当 佐藤 佳宏）